目次

序……衛藤藩吉……1
はじめに……8
第一章　戦争と原爆……13
I　広島に原爆投下……14
一発の爆弾　恐怖心の産物　〝真理〟という名のベール　原子力時代の開幕　国家機密のとばりおろす　アインシュタイン登場　原爆製造を決定　製造目標の転換
II　対日無条件降伏の要求……32
「無条件降伏」　トルーマン前政策を踏襲　天皇制をいかにするか　決定の延期
III　無条件降伏獲得の三手段……43
日本本土上陸作戦　ヤルタの密約　第三の手段　原爆投下反対のうごき　ついに投下を決定
IV　戦争末期の日ソ関係……57
対ソ和平工作を続行　知らなかった秘密協定　断末魔のあがき
V　ポツダム宣言と日本の降伏……62
三国首脳会談　史上初の実験成功　天皇制存続問題　ポツダム宣言を黙殺　原爆投下とソ連参戦　不必要だった原爆投下
第二章　恒久平和の夢……85
I　平和構想と原爆管理……86
パクス・アトミカへの期待　前原子力時代の産物　恐怖のない世界を　原爆独占の基本態度　なおざりにされた管理問題　ポツダム会談の筋書き　米ソ協力の道を閉ざす

Ⅱ 冷戦への道……103
管理問題に着手　モスクワ会談　具体案の作成　バルークの登場　国連原子力委員会の発足　米ソ対立　軍縮と軍拡

第三章　冷戦時代の開幕……123

Ⅰ 冷戦開始……124
米ソ双極化へ　双方の思惑

Ⅱ 戦後のソ連戦略……128
一変した戦略的立場　秘匿された原爆の威力　外では禁止運動を展開

Ⅲ ソ連の原爆製造……132
順調な滑りだし　対独戦争で挫折　原爆スパイの活躍　ポツダム会談の謎　四年間で追いつく

Ⅳ 米、欧州に乗り出す……141
マーシャル・プラン　封じ込め政策の採用　封じ込め政策の戦略的意義　混迷と暗中模索

Ⅴ ベルリン封鎖……152
ソ連の挑戦　アメリカの反撃とNATO

Ⅵ 核軍拡競争……155
ソ連の核爆発を探知　水爆製造に着手　水爆と原爆との相違

Ⅶ 朝鮮動乱……163
侵略者は北か南か　朝鮮放棄案　動乱勃発とトルーマンの決意　敗走につぐ敗走　逆転劇　仁川上陸作戦　三十八度線北上と中共の姿勢　ウェーキ島会談　米中会戦　原爆を使用するか　組織的撤退　マッカーサー解任そして休戦

第四章　核戦略時代へ……195

Ⅰ 朝鮮動乱の影響……196

極東情勢へ波紋　封じ込めの徹底と限定戦争の登場　冷戦態勢をつくる　動乱を利用して再軍備に成功　同盟国への要請

Ⅱ　核戦略、外交理論の確立……203
熱意示さぬ同盟諸国　軍事と経済のギャップ　ニュー・ルック誕生　戦争瀬戸際外交の推進

Ⅲ　ソ連も核時代に入る……211
スターリン戦略批判　フルシチョフの勝利　核破壊力を認める

Ⅳ　相互抑止と平和共存……216
相互抑止の条件　ジュネーブ巨頭会談　平和共存論への反応　非スターリン化と雪どけ　平和は訪れたか　二つの動乱の余波

第五章　核ミサイル時代……227

Ⅰ　ロケットの歴史……228
人工衛星第一号　ロケット前史　ドイツのロケット研究　ソ連のロケット研究　アメリカは軽視

Ⅱ　スプートニクの波紋……236
その軍事的意義　アメリカへの衝撃　アイク、軍拡強化を回避　ロケットの目的

Ⅲ　退避壕騒ぎ……242
ケネディ登場　戦略三原則　ゲリラ戦対策にとり組む　キューバの失敗　退避壕騒ぎ始まる　退避壕推進の歴史　抑止力と退避壕　保険理論　築かれたベルリンの壁　失敗に終わった退避壕政策

Ⅳ　マクナマラ戦略……260
ソ連核実験を再開　アメリカも対抗する　マクナマラ戦略の形成　米ソの戦力比較

Ⅴ　キューバの対決……269
ミサイルをキューバへ　迫られた選択　封鎖を

決定　米ソの対決　ソ連の反応　ついに譲歩
Ⅵ　核禁条約と平和共存……282
米ソ対立の分水嶺　軍拡競争冷却化　成功した封じ込め

第六章　赤い中国の挑戦……293
Ⅰ　毛沢東戦略と原爆……294
はじめ原爆を軽視　核国家に挑戦　核時代を認識　人民解放軍の近代化
Ⅱ　台湾海峡の危機……304
台湾解放めざす　派手なポーズ　ソ連の変化　フルシチョフの北京訪問　対米牽制続ける　平和外交へ
Ⅲ　スプートニクの波紋……316
中ソ対立と非スターリン化　百家争鳴百花斉放　東風は西風を圧する　激動期に入った中ソ関係
Ⅳ　非核地帯構想……325
核拡散防止の方法　中部欧州の安全確保　アジア非核を支持　中国、非核構想を撤回
Ⅴ　再び台湾海峡に危機……331
大躍進と米帝攻撃　金門大砲撃　三つの解釈

第七章　中国の核武装……341
Ⅰ　中国の核開発……342
原爆製造の目的　ソ連の援助　その一方的破棄　ソ連の新理論　「民兵は、ひと山の肉のかたまり」　自力核武装
Ⅱ　対立と調整……353
党の軍部支配　民兵の組織化　彭、黄追放事件　林彪登場
Ⅲ　天災克服、実験成功……364

苦境を語る工作通訊　精神の原子爆弾　対米衝突を回避　中ソの暴露合戦　核実験成功　ミサイルによる核実験

Ⅳ　中国の核外交……374
ハリコの虎はどうなるか　抑止力としての核兵器　大国の地位　民族解放の支援

第八章　多極化時代……395

Ⅰ　多極化はじまる……396
双極化打ち破る中仏　国家主権至上主義　共産国家も民族国家

Ⅱ　多極化の限界……402
核拡散は防げない　拡散の限界点　超大国は米ソだけ　アジアにおける封じ込め

Ⅲ　世界平和の将来……410
核国家と非核国家の対立　核国家間の戦争はさけられるか　パクス・アトミカ

あとがき……422

年表・索引

文中の行間の＊は注印、注は各章末にある。